

テーマ：ロイター短観（2013年2月）

発表日：2013年2月21日（木）

～製造業DIは円安による輸出採算の改善を背景に持ち直し～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 大塚 崇広  
TEL：03-5221-4525

		製造業DI										非製造業DI									
		素材型					加工型					不動産・建設	卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス				
繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄		食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器、その他												
2011	6月	▲3	▲17	▲40	▲14	0	▲10	4	38	21	▲4	▲16	▲17	▲10	▲21	5	4	0	▲27	▲14	
	7月	1	▲10	▲30	▲5	0	▲11	9	13	25	8	0	▲15	3	▲13	16	14	21	▲7	0	
	8月	6	0	▲30	16	0	0	11	▲20	9	8	29	9	7	▲9	18	13	25	▲12	13	
	9月	8	2	10	5	0	▲12	10	0	9	5	27	9	3	▲12	12	9	19	▲7	7	
	10月	6	2	▲11	11	0	0	9	0	0	4	33	7	1	▲13	16	▲4	15	▲8	7	
	11月	1	5	0	5	0	12	▲1	0	▲16	▲5	29	▲7	3	▲19	16	5	27	▲12	13	
	12月	▲5	▲6	▲20	▲5	▲12	12	▲4	0	▲10	▲4	7	▲9	6	▲8	26	4	27	▲4	10	
	2012	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	8	0	22
		2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	18
		3月	2	4	11	5	▲12	14	0	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	24
		4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	42
		5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	38
6月		▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	▲3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	13	
7月		▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16	
8月		▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17	
9月		▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	26	
10月		▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	25	
11月		▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	14	
12月		▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	18	
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	25	
	2月	▲13	▲15	▲36	▲4	▲15	▲13	▲11	20	▲19	▲26	6	0	8	9	25	▲5	7	▲17	29	
3ヵ月後見通し		3	▲2	▲36	4	29	0	5	0	11	▲4	7	10	21	22	38	5	27	▲4	41	

(出所) ロイター「ロイター短観」

## ○製造業DI：景況感は持ち直し

2月ロイター短観（調査期間2月1日～2月18日）の製造業DIは▲13（1月：▲17）と前月から改善した。改善の主因は円安の進展であり、特に加工型の景況感の改善が目立つ。「円安により収益力が改善」（機械）、「円高是正及び需要の堅調」（輸送用機器）など、円安の進展による輸出採算の改善が景況感の押し上げ要因となったようだ。一方で、素材型は横ばい圏にとどまっている。素材型も円安による輸出採算の改善の恩恵を受けているものとみられるが、「円安による仕入れ価格高が進んでいる」（繊維）、「為替に起因する原料価格急騰が販売価格に追いつかない恐れ」（化学）というように、円安を背景とした原材料高が景況感の重石となったようだ。この他、実需が依然として低迷していることを懸念するコメントもあったが、総じて円安による輸出採算の改善を背景に製造業の景況感は持ち直しつつある。

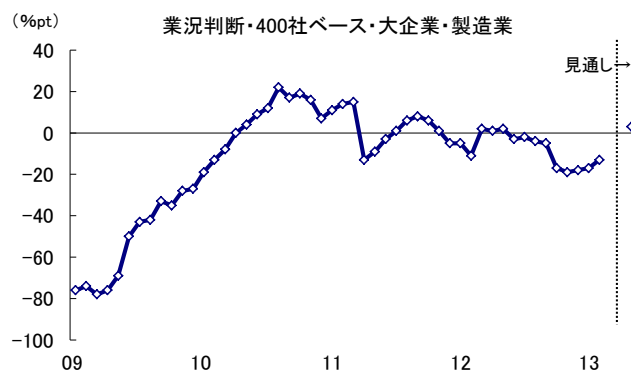
3ヶ月後の見通しは+3と2月実績（▲13）から一段の改善が見込まれている。これまで景況感を下押ししてきた輸出の悪化、国内自動車販売の減少には足元改善の動きが窺える。国内自動車販売についてはこれまでの需要先食いの規模が大きいと、この先販売が順調に回復していくかどうかについては慎重に見る必要があるが、とりあえず底を打ったことの意義は大きい。一方、輸出については海外経済の回復に伴い持ち直しに向かうことが予想されることに加え、徐々に円安の数量効果が顕在化してくることが期待される。製造業の景況感の回復傾向はしばらく続く可能性が高い。

## ○非製造業DI：小幅悪化も高水準を維持

非製造業DIは+8（1月：+10）と小幅悪化したものの高水準を維持した。非製造業DIは夏場以降や

や息切れ感がみられていが、ここ数ヶ月は再び持ち直しに転じつつある。業種別にみると、不動産・建設が住宅ローン金利の低さや復興需要等によって良好な水準を維持していることに加え、その他サービスも高水準を保っている。製造業の不調を背景に弱含んでいた卸売も足元改善の動きが窺える。

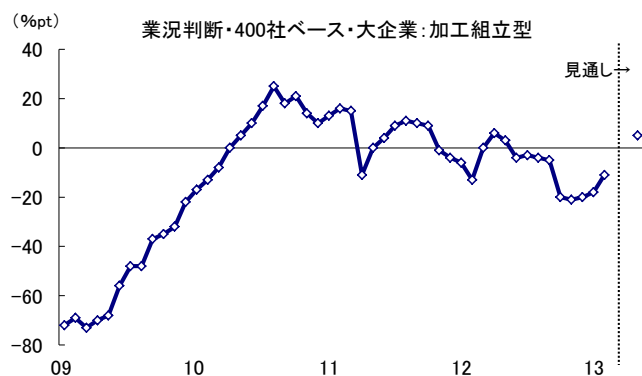
3ヶ月後の見通しは+21（2月実績：+8）と大幅な改善が見込まれている。足元の株高や新政権の経済対策に対する期待感などから、すべての業種で一段の改善を見込んでいる。期待先行の面が強く、実際に見通し通りの大幅な改善となるかは疑問であるが、製造業の持ち直しや消費者マインドの改善を背景に非製造業の景況感は良好な水準が続く可能性が高いだろう。



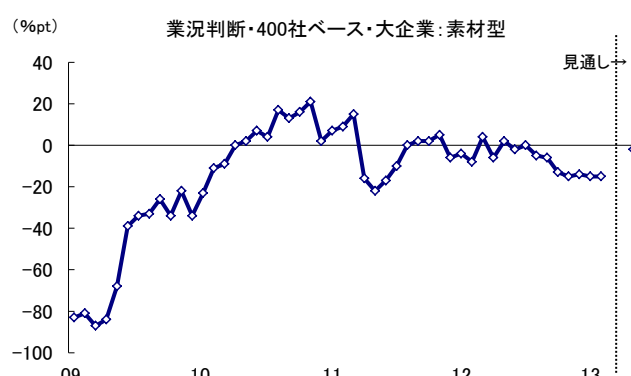
(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」